

令和5年度 第4回 浜松市立神久呂中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月22日（木） 午後3時00分から午後4時35分まで
- 2 開催場所 浜松市立神久呂中学校 大会議室
- 3 出席委員 池谷 昭広、谷井 文明、池谷 友美子、内藤 由美香、加藤 六明、宮澤 俊英、伊藤 直樹、鈴木 千丸
- 4 欠席委員 原田 功
- 5 オブザーバー 村松 俊司（神久呂協働センター所長）、和久田 ゆかり（主任児童委員）、松田 友秀（令和6年度PTA会長）
- 6 学 校 今明 薫（校長）、榊原 早苗（教頭）、小栗 慎二（教務主任）、中島 潤（CS担当）、河合 恭子（CS担当）、森田 美和（CSディレクター）
- 7 教育委員会 なし
- 8 傍聴人 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 森田 美和

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、宮澤俊英委員を推挙する旨の発言があり、出席委員全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）学校関係者評価
- （2）令和6年度学校運営基本方針
- （3）学校運営協議会の自己評価

12 会議記録

司会の中島先生より、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

会議の前に、中島先生から3年生の面接練習の報告および御礼があった。

（1）学校関係者評価

議長の指示により、教務主任の小栗先生から、学校関係者評価アンケートの結果に基づき、スライドで結果をまとめた表を見ながら、詳しい説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・この地域の子供たちは、中学3年間だけでなく、小学校から一貫して同じ友達と過ごすことが多く、また、地域・保護者・生徒の繋がりがとても強いと感じる。そのことが、「つながる力」の評価が高くなっている理由の一つだろう。しかし、地域のイベントや活動などがコロナの影響で若干減ってきているように感じる。地域の祭りやイベントをコロナが明けてどのように開催していくのか、今後、全体で考えていきたいと感じた。（谷井委員）
- ・ボランティアや地域活動に積極的に参加できていないようだが、コロナが明けてこれからは参加の意欲が上がってくるだろうと期待したい。評価の結果で生徒は高い評価をしているが、保護者から見ると高い評価が出ていない。親と子供では見方が違うのかと感じた。この地域の子供たちは、優しい子が多く、あまり積極的ではないのかなと感じている。（池谷友委員）
- ・自分の娘たちもそうだが、地域活動にあまり参加しないのは、コロナが明けて外部のクラブ活動が活発になり、多くの子がそれらに時間を費やし、忙しいからではないだろうか。他の地区の人たちからは、神久呂の子は優しい子が多いということをよく言われる。そういったことから、学校内で

のいじめなどが少ないのではないだろうかと思う。また、中学時代は多感な時期でなかなか親と会話をするのがなくなり、子供の学校での生活が見えにくくなることで、子供と親の評価の違いがでてくるのではないだろうか。(内藤委員)

- ・つながりということ言えば、神久呂地区の子は、幼稚園の頃から一緒の子が多くいる。その中で、相手の気持ちが言葉にしなくても分かり合える仲になっているのだろう。仲が良すぎて、切磋琢磨し競争するといった力が欠けているように思う。湖東中と神久呂中で部活動の指導をしているが、湖東中の生徒は、部内でも対抗心やライバル心があるが、神久呂中の生徒はすでに仲間内で自分のポジションを作ってしまう、今のままでいいと考えているように見受けられる。子供の心の中で、もう少し勝気な気持ちが芽生えるようになるといいと思う。地域活動などのボランティアの機会がないのは、あまり場がないからではないだろうか。場がなければ参加したくてもできないので、今後、いろいろなイベントや活動があればいいと思う。(加藤委員)
- ・地域での活動はできているが、確かに中学生の参加は少ないと思う。昔は強制的に活動に参加させることもあったが、コロナの関係や環境の変化で今はできない。今後、今までやっていた活動が復活するかもしれないが、忙しくなり過ぎても仕方がないので、ちゃんと精査して活動を再開していきたいと思う。(伊藤委員)
- ・生徒の自己肯定感が出ていると感じた。保護者との結果の違いは、視野が狭いということや地域の中で刺激が少ないということだと思う。地域行事の参加が少ないのは、イベント事の好きな大人が企画、実行することで、入りにくくなってしまっているのではないだろうか。ボランティアに対する評価が昔ほど高くなく、参加機会が減るのだろう。保護者が学校に対する信頼度は高く、いい評価だと思う。子供たちが自分を正しく見ることができる人間になってほしいと感じた。(鈴木委員)
- ・アンケート結果で「良かった」と評価が高かったものは、学校や授業に関係するものが多く、先生方の努力や指導の良さが反映されているのだと感じた。生徒も学校行事や学校生活を一生懸命やっていることがわかる。コロナ明けでみんなと繋がりたいという気持ちが強く出ていたと感じた。また、神久呂地区は1小1中で人間関係の変化がないので、中学に入って環境や自分自身を変えたいと思っても、なかなか難しい。変わることによって、人間の成長を促すことができるので、どのようにしたらいいかを考えていきたい。(池谷会長)
- ・地域活動やボランティアの参加があまりないようだが、外部のクラブ活動があり、外の地域の子供たちとの交流で繋がりができているのだろう。今までの委員の皆さんがおっしゃっていただいた意見を今後の学校づくりに生かしてください。(宮澤委員)

(2) 令和6年度学校運営基本方針

議長の指示により、校長先生から、別紙に基づき、学校経営案やグランドデザインなどの詳しい説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・新しい考え方が登場してきていると感じている。時代の先を見て学校運営が行われていると思う。子供たちと向き合う時間を大切にして、子供たちから吸収するという考え方もあったので、とてもいいと思うし、これを続けてもらいたい。(鈴木委員)
- ・PTAもコロナが落ち着いて、これからどのように活動していくのか課題がある中、学校にどのような形で協力できるか模索している。できる限り学校の運営に協力して、子供たちの学校生活がより良くなるようにしていきたい。(伊藤委員)
- ・大きく変えるというよりは、今までのものをより深く浸透させていくといった感じだろうか。子供

たちがどう思っているのかをしっかりと感じながら、より深く先のことも考え、時代に合った経営案で良いと思う。(加藤委員)

- ・大賛成だ。とても素晴らしい経営案だと思う。特に、「家族のような職員集団」という考え方は、仲が良く、お互いを信頼できる関係性を作っていくことだと思うが、素晴らしく感じた。これからもよろしく願いしたい。(内藤委員)
- ・子供たちのことが中心に考えられている。全てを新しく変えるのではなく、今ある案をより良くするために修正し、完成させていく。そのような考えでいいと思う。私たちにもいろいろ学校のことを教えていただき、できる限り協力していきたいと思う。(池谷友委員)
- ・学校は、子供が成長し輝ける場所になってほしい。年によって雰囲気は違うだろうが、中学3年間こんなに密なことをやってくれるというのは、ありがたいことだと思う。自分にとっても中学時代が一番思い出深くいい思い出がたくさんある。「共に生き、共に育ち、共に学ぶ」のスローガンはとても素晴らしい。子供たちもそれに向かって安心して進んでいってほしい。(谷井委員)
- ・1年目は様子を見ながらやってこられたと思うが、2年目は校長先生のカラーで進めて行けるのではないだろうか。今日欠席の原田委員がいつも言っているのは、学校の負担にならないようにしてもらいたいという事だ。子供のためにいろいろしてもらいたいという意見もあるが、先生方の健康も大事。だから子供の事だけではなく、先生方の心や体のことも考えながら運営していただけたらと思う。(池谷会長)

【本議題は承認が必要とのことで、出席委員全員の拍手にて承認された】

(3) 学校運営協議会の自己評価

議長の指示により、中島先生から、事前評価の結果に基づき説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・コーディネーターとしての仕事で職場体験がメインだったが、次のステップとして、PTAがCSを見てもらって、認知してもらい、活動的なものをしていけたらいいと思う。学校、PTA、CSが三位一体となって活動できればいい。参加しなくても、見学だけでもしてもらい、CSがこのような活動をしているという事をみんなに知ってもらいたい。今はまだ成長段階だと思う。(谷井委員)
- ・今やっている活動の質を高めていけたらいい。年々いい形で学校と地域、生徒みんなで繋がることのできたらいいと思う。先生方の仕事をできるだけ負担にならないようにしていきたい。また、職場体験のアレンジなど一部の委員の方に負担が多いと思うので、少しでも協力できることはしていきたいので声をかけていただきたいと思う。(池谷友委員)
- ・CSの在る意味に賛同し参加できてよかった。PTAや先生の負担を少なくしていくことを考えていく必要がある。また、その先に生徒がいると常に考え、もっといいCSになっていけたらいいと思った。(内藤委員)
- ・CSの情報発信で、学校ホームページに載せるのは簡単だが、見てくれる人がいなければ何の意味もない。昨年CSが立ち上がり、2年目の今年の方が広がっていると感じるが、まだ知らない人が多い。これからも地域への発信を続けていきたい。口コミは認知してもらうのによい手段だ。地域の集まりでCSの活動の話をする事で、みんなに知ってもらうことが大切だと感じる。地域での広まりがあればもっと成果が出ると思う。(加藤委員)
- ・学校ごとにCSの在り方が違い、差があるように思う。全てCS経由でPTAに学校行事や活動の話が回ってくる学校もある。CS委員だけが盛り上がり過ぎて生徒が置いて行かれないように、全

体を考えながら進めていきたいと思う。来年1年間も頑張りたい。(伊藤委員)

- ・ 効率を考えているかなと思う。公正、公平でみんなに均一にいきわたっているか。こういった形が正解で、何をしたらいいか。また、生徒の変化をフィードバックさせているか。いろいろなことを考えるきっかけになった。情報を発信するには、自分が中心的に動き、受動的ではなく主体的に情報を流していくことがいいと思う。(鈴木委員)
- ・ 情報発信のことで言うと、学校のホームページだけだと、自分から進んで見ないと情報を得ることができない。自治会館や協働センターなどの掲示板を有効に使い、CSの活動を発信していく。その時に加えて「見学だけでもお待ちしております。」などのメッセージを添えて掲示できれば、もう少し知る人が増えるのではないだろうか。また、学校行事を新聞社等に取材していただくのも一つの手だと思う。こんな活動をしているのだと紹介してもらえたら認知度も上がるだろう。この会の在り方としては、学校、生徒を中心に、学校にプラスになるかを考えながら話をさせていただきたい。(池谷会長)

その他連絡事項

- ・ 教頭先生から、今年度のCS活動へのご協力のお礼、夢育やらまいか事業についての報告、卒業式・入学式の御案内があった。
- ・ 司会から、次回令和6年度学校運営協議会の開催予定の報告があった。